

# 連続セミナー～障がい児者の親なき後

特定非営利活動法人 いちばん星

〒577-0032 大阪府東大阪市御厨 3-8-41

## 助成事業の概要

障がい児者を抱える家族の大きな問題として「親なき後」ということがあります。これは障がい児者の親やきょうだいだけの問題ではなく、障がい児者本人やその家族全体、そして周りの支援者にも通ずることです。親なき後、障がい児者本人の衣食住はどうするのか、金銭の管理は誰がするのか、大きな決断事は誰がしていくのか。社会全体で考え、支えていく社会であるために、まずは「親なき後」の問題に多くの障がい児者の親、きょうだい、支援者が目を向け、学び、理解していくことが必要であり、そのためには正確な情報を得る機会が必要だと考え、昨年度「親なき後」にスポットを当てた単発のセミナーを開催しました。開催する中で、この問題は奥深く、情報量も膨大であり、単発のセミナーだけでは理解は難しく、参加者アンケートからも「もっと学びたい」という声が多数寄せられました。更に学ぶ内容を親、きょうだい、支援者とそれぞれの立場によって変えることでより専門的に学べる事も分かりました。今回は前回のセミナーの反省を生かし、誰もが安心して自分らしく生活ができる社会にしていくために「親なき後」を学び、理解する「障がい児者の親なきあと連続セミナー」を4回、参加対象を絞って開催しました。

## 事業の成果

障がい児者を抱える家族の大きな問題として親なき後があります。親は「この子をおいて死ねな

い」、きょうだいは「親が亡くなったら自分が障がいあるきょうだいの面倒を見ないといけないのか」とそれぞれの立場で親なき後について思い悩んでいます。いつか訪れる日のために誰もが不安を抱きながらも親なき後のための正しい情報は十分ではありません。何も準備がなされぬまま親なき後を迎えると困るのは障がい児者本人はもちろんのこと、きょうだい、余波は支援者にまで広がります。親、きょうだい、支援者、それぞれの立場から親なき後のために正しい知識を得ていくことで、親なき後のために今できることを実行し、いつか迎える親なき後を安心して迎えることができる社会にしていきたいと考えています。今回も「親なきあと」の専門家、藤井奈緒さんをお招きして、今回は参加対象と講演テーマを絞った連続セミナーにすることで、より深く専門的に「親なき後」について学び、それぞれが「親なき後」への準備を進めていく機会としていくことができたように感じます。講演内容は、親なきあとに起こりうる問題や、障がいのある子への財産の残し方、親の想いを残す様々な手段、現在取り組めることなどについてお話頂きました。難しい内容をとっても分かりやすくお話頂き、理解が深まると同時に、今から取り組まなければいけないこともそれぞれの参加者にとって明確になりました。また、講師を囲んでの参加者からの質疑応答やそれぞれの立場での思いや悩みを話す時間も設けたことで、参加者にとっては心がホッとする時間を提供できたのではないかと考えます。

また、今回も新型コロナウイルスの感染状況に振り回される結果となりました。状況を見極めながら開催

をオンラインにするのか対面で行うのか各回難しい判断ではありましたが、その都度判断し計 4 回の内、1 回を対面、3 回をオンラインにて開催しました。親世代の方たちにはオンラインを使いこなせない人も多く、オンラインでの開催が有効である反面、重症心身障がい者を抱える親にとっては外出することも一苦勞でオンラインでの開催の方が参加がしやすかったこと、またオンラインの開催だからこそ、日本全国どこからでも参加できることなど、オンライン開催と対面開催のそれぞれのメリットデメリットもより深く理解することができました。

## 成果の広報、公表

当法人の SNS(Facebook、Instagram、LINE タイムライン) にて当日の写真を添えて成果などを公表しました。また、参加者には後日メールなどで参加者アンケートを集計してまとめたものをお伝えしました。

## 今後の展開

今回、対面で行いたい企画がありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見る中で中止せざるを得ない企画がありました。講師からお配り頂ける「親ごころの記録」をより生かしていく為に、記録への記入を各家庭に委ねるのではなく、「親ごころの記録を完成させよう！」を開催することで、より活きた親ごころの記録の作成ができるのではないかと考えていました。

今後、今回中止になった企画を再度開催する予定で考えています。

また、今回はオンライン開催と対面開催、どちらも開催し、それぞれのメリットデメリットを感じることができたので、今後もどちらかに偏ることなく、「必要な情報を知らなかった」「情報を知り

える機会がなかった」という人々を無くし、情報格差をどうすれば無くしていけるのか、の視点でも考えていきたいと思います。

今後も「親なき後」の問題を社会全体で考え、支えていく社会であるために、奥深くて情報量の多い「親なき後問題」について更に学ぶ機会を設けること、多くの人に知って頂く機会を設けていくこと、そして現実として「親なきあと」問題に直面をしている方々を専門家にお導きできるように微力ながら尽力していきたいと考えています。